町史とっておきの話 213

只見とっておきの魚たち ③

バチイヨ・ヤツメはどこへ行った？

南相馬市博物館学芸員　稲葉　修

只見町の川で、数が少なくなった魚はというと、どんな魚を思い浮かべますか？「カジカが減った！」と言う人は多いでしょう。只見町のカジカは、一生を川（淡水）で過ごす「陸封型カジカ」という種類です。図鑑によっては、大きめの卵を産むので「大卵型カジカ」とも記されています。少なくなった原因として、広葉樹を切りすぎて山から土砂が流れ込み、生活の場である川底の石と石の隙間が埋まってしまったこと、それによりエサとなる水生昆虫が激減したことなどが考えられます。

バチヨ、バチイヨと聞いて、「昔はたくさんいて、つかむと刺されたなぁー」と懐かしく思う人が多いのではないでしょうか。これはアカザというアカザ科の魚で、カジカと同じような理由で減少しているようです。日本固有種（日本にしか生息していない種）で、本州（青森県から福島県の太平洋側と関東地方を除く）、四国、九州の水のきれいな清流でみられます。胸ビレや背ビレにトゲがあり、バチ（蜂）のように刺すヨ（魚）という意味で、この魚のことをよく表現した地方名です。調べてみると、只見川や伊南川、そこにそそぐ蒲生川や叶津川、黒谷川などのおだやかな流れの川底の石の下から確認できました。会津全域でも少なくなっていて、南会津町や会津若松市、喜多方市などでも数が減っているようです。

只見町や南会津町の南郷、伊南、舘岩の伊南川流域に生息するヤツメも「少なくなったなぁ」と言われる人が多いようです。これは「カワヤツメ河川型」と呼ばれるヤツメウナギ科の生物です。口は吸盤状でアゴはありません。数が減った理由は調査中ですが、川岸環境の変化が原因のひとつのようです。ふつう、カワヤツメは海に降り、成長してから川に戻る生活を送り、全長50センチほどになります。伊南川に生息するカワヤツメは一生を川で過ごし、全長15～20センチしかありません。しかし、30センチ以上の個体が見つかったこともあります。国内での生息地は少なく、生息域が只見町から南会津町舘岩にかけて約50キロにもおよぶ伊南川は、全国的にみても貴重な河川といえます。

これらの魚たちは、ブナの森を水源とする豊かな河川環境で育まれてきた只見の大切な宝物です。レッドデータブックで絶滅危惧種にも選定されていますが、これからは、生態系を重視した河川環境の整備を行うなどして、絶滅危惧種を増やさないようにしたいものです。

伊南川に生息するカワヤツメ